

2. めざす大学像

①文理融合の教育

本学は、人間教育の視点から、日常的な学生の交流をとおして成熟した社会人への成長を支援できるように、文系3学部（音楽学部・総合政策学部・文学部）、理系3学部（薬学部・理工学部・香川薬学部）のほか、文理融合の2学部（人間生活学部・保健福祉学部）と短期大学部を設置し、総合大学の特性を生かした文理融合の教育をめざしている。

②教育目標・方法等の明示と自立学修

本学は各学部・学科の教育目標・方法等を履修ガイド及びシラバスに明示し、目標達成のため教員と学生はともに努力している。

また、カリキュラムの充実のほか、国家試験、資格試験での合格率の向上と、資格取得に努めている。そのために、学生自らが課題を見つけ解決するいわゆる「自立学修」ができる教育も実践している。

③教育への信頼（安心と安全）

～適切できめ細やかな教育と学生の成長を支援する充実した教育・研究環境～

本学が掲げる「安心」とは、学生に対し親切に接し、いい教育・わかる教育を行うことつまり教育の質を保証するものであり、「安全」とは、今後予測される南海トラフ地震の発生に備えた耐震化等、学生・教職員の教育環境を整えることである。

本学では、学年・学期の各段階で、学生に適切できめ細やかな教育を行うよう努めている。入学前教育は、AO入試、推薦入試に合格した段階から開始しており、学生の出身校と連携をとりながら、入学後の学修がスムーズに進むよう支援している。

また、新入生一人ひとりに各学部・学科のチューターあるいは担任が付き、平成25(2013)年からWeb化した「学習ポートフォリオ」をもとに面談を行い、教員とのきめ細かな連携を構築しながら、大学生活をサポートしている。

なお、新入生は、本学の特色である「文理学」を必修科目として履修している。「文理学」では、理事長の「徳島文理大学の建学精神と歴史」や学長の「大学とは」の講義に続いて、「学習ポートフォリオの使用説明」を行い、学生の自主学修を促している。

そのほか、全学共通教育センターでは、学生の個々の事情に合わせた各学部・学科教育の専門的な学修に備えるための支援として「学力充実講座」を開講している。また、eラーニングによる学習システムも導入し、個別メニューで効果的に独自学習が行えるようサポートをしている。それに加え、教員をめざす学生には「教員養成対策講座」、公務員をめざす学生に対しては「公務員試験対策講座」での指導を通じて、進路の実現を支援している。

さらに、「FD 研究部会」は、FD(Faculty Development)研修会・講演会の開催、全

学授業評価アンケート調査、研究授業、卒業生の満足度調査等を行い、教育活動の質の向上に努めるだけでなく、学生と教員の連携を円滑に進めている。

教育・研究環境面では、メディアセンターに ICT(情報通信技術)教育設備を設置し、語学や基礎学力向上を図るセンターや、生活面をサポートする施設等を置き、学生の自主的な学びの場や学生と教職員とのコミュニケーションの場として活用されている。

また、徳島及び香川両キャンパスにある図書館は、豊富な資料を揃えており、情報システムのもと DVD、CD、ビデオ等あらゆる視聴覚資料を学生に提供し、教育環境の完備に努めている。

さらに、徳島キャンパスには、世界最高水準の音楽ホール「むらさきホール」並びに「アカンサスホール」、「ボストンホール」を設置しており、学生のレッスン、学生による定期演奏会、OB 定期演奏会等に利用している。同ホールでは、国際的に活躍している演奏家や指揮者による演奏も行われており、学生はそれらを直に聴くことができる。また香川キャンパスには、同様の機能を有した「村崎サイメモリアルホール」を設置している。

優れた教育を支える活発な研究活動は本学の特徴でもある。研究活動は学生の問題発見能力と問題解決能力の育成に役立ち、その成果を社会に発信できた時の喜びは学生と教員が共同して成し遂げた教育成果としても分かち合える。徳島・香川キャンパスには充実した教育・研究機器が整備され、最先端の研究が展開されている。最近 5 年間の本学の科研費獲得数は中四国私立大学で上位にランクされ、特に化学系薬学、天然資源系薬学、環境・衛生系薬学と動物生理・行動の 4 分野においてトップ 10 に入り、さらに天然物分野の国際学会の開催や、シュプリンガー・ネイチャー社の「Nature Index 2017 Japan」において全研究機関ランキングで 78 位、全国私立大学で 15 位（中四国・九州の私立大学 1 位）に選ばれるなど、研究活動と研究成果は内外から高い評価を受けている。

④地域に密着した教育貢献

本学は地域に密着した教育貢献を心がけている。これは、本学が徳島の地で震災から復興し今日の発展に至ったのは、県民の教育への思いや、成功を収めた多くの卒業生、多数の保護者、教育に尽力した教職員、地域住民等の限らない協力と支援に負うところが大きかったと考えるからである。

地域に密着する教育貢献としては、公開講座や公開講演会、定期演奏会、高等学校等への出張講義、児童・生徒を対象とした科学・工作教室等の開催、徳島・香川県等との地域連携事業の推進のほか、本学施設を一般の講演会と演奏会等の会場としても提供しており、地域住民の参加を歓迎している。

また、平成 27(2015)年 4 月に、地域貢献・地域連携を担う中核として地域連携センターを設立した。さらに、平成 29(2017)年度から本県の重要健康課題である糖尿病対

策に資するため、地域連携センター内に「糖尿病看護認定看護師教育課程」を開設した。

⑤グローバル教育

本学は四国に位置していることから、日本や世界の流れを踏まえつつ地域とともに歩める人材を育成することを目的とし、グローバルに考え、ローカルに行動する「グローバル教育」を実践している。そして、そのために必要となる ICT 能力やコミュニケーション能力の向上を図れるように、メディアセンターの充実や、ICT の導入、総合大学の特色を生かした多様な講義の受講機会を設ける等、教育環境を整えている。また、地域を知り、厳しい社会環境を生き抜き活躍していけるよう、学生には地元企業や地域とのインターンシップに積極的に参加するよう推奨している。

そのほか、地方にある大学にとって、学生の就職支援は、学生の大学生活を成功に導くための極めて重要な課題である。必修科目である「文理学」のカリキュラムにキャリアガイダンスを取り入れ、キャリア形成への意識付けを初年次から始めた。その後は就職活動の指導・支援を進め、3年次には就職相談や支援に努め、成果を上げている。

⑥国際交流

本学は総合大学である特徴を生かし、米国、カナダ、ヨーロッパ、アジア、オセアニアなどの 11 か国・31 大学と協定を締結している。また高大連携は 9 校となっている。

米国のマサチューセッツ工科大学との協定を日本で最初に締結したほか、音楽療法の先進校である米国のシェナンドー大学から日本の大学として初めて音楽療法教育を導入した。

このほか、韓国・檀国大学校、香港城市大学、台湾の中山医学大学等とは、学生の短期・長期の滞在を含めた定期的な交流を行っている。また、音楽学部は、ウィーン国立音楽大学教授陣による夏期・冬期講習会も開催しており、音楽留学の道も開いている。

これらの国際交流を通じて、本学の学生は、海外の教育を受けたり異文化に触れたりすることができ、異文化への理解や国際的な視野をひろげることにつながっている。また、本学の教員も国際シンポジウムに招待されることが多く、本学が高い研究レベルを維持し、国際的に活躍できる大学としての特色を備えている証左でもある。

また、平成 26(2014)年度に「国際交流グループ」と「語学センター」を統合し、国際部を新設した。現在、11 人体制で運営を行っており、平成 28(2016)年度、学内横断的な組織である国際交流委員会を設立し、国際交流・グローバル化を推進する体制を整備した。